



中部電力

植物成長調整剤による樹木伐採の省力化

様々な樹木で 伸長抑制効果を 検証しています。



背景・目的

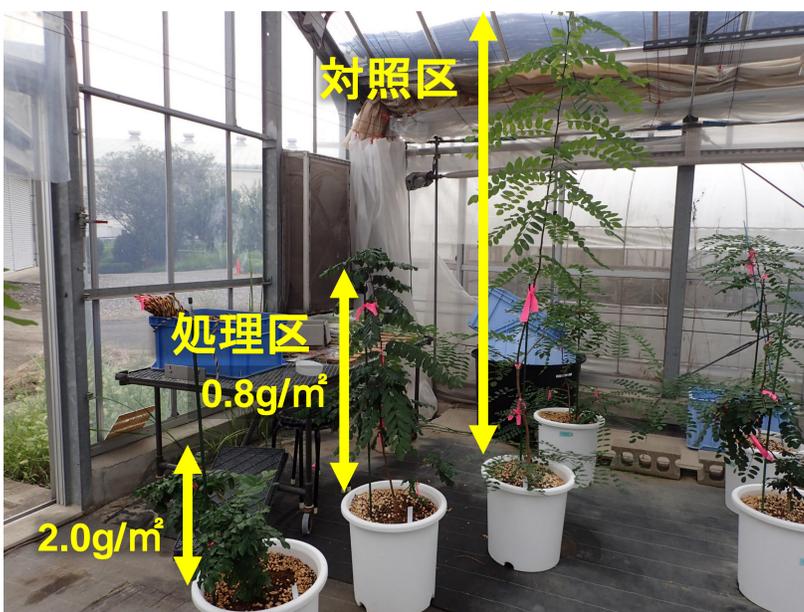
- 送電線や配電線では、成長した樹木が接触して電気故障が起こるのを防ぐため、定期的に樹木の伐採を行っています。
- 最近では、建設当時に植えた樹木が成長して送電線との距離が近くなったことや、温暖化で成長が早くなっている樹木があることから、伐採費用は年々増加しています。
- 植物の枝葉の伸長を抑制する効果がある植物成長調整剤を用いて、伐採対象となる樹木の伸長がどの程度抑えられ、伐採周期の延長などによりどの程度省力化できるかを検証します。

特長

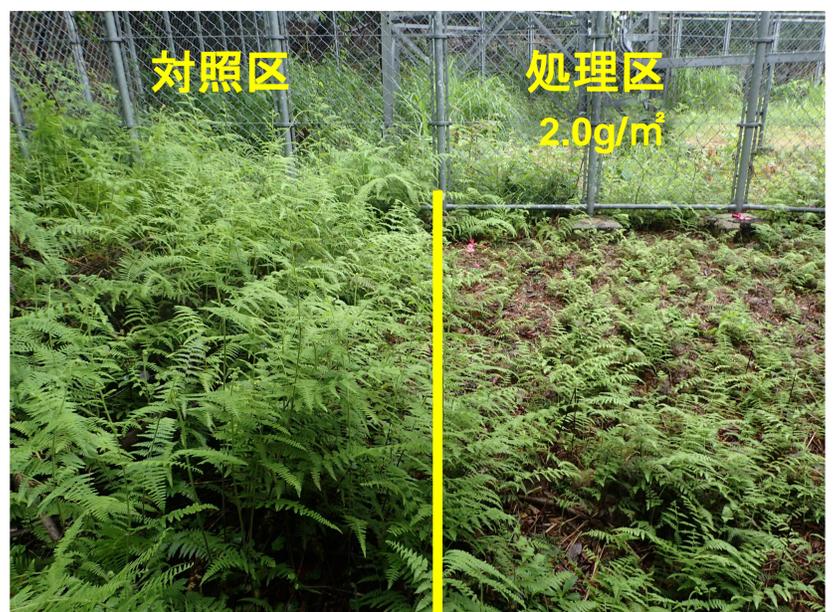
- 植物の伸長を抑制するだけなので、植物が枯れることはありません。
- 処理時期は、冬季や春先など植物の成育期前が適期です。
- 高速道路の法面管理で既に一部実用化されており、農薬登録済みの市販の薬剤です。

用途

- 伐採後の枝の再伸長や切株からの萌芽の抑制による次期伐採までの期間延長
- 下草の成長抑制効果による保守・点検時の歩行しやすさの確保



成長の早いニセアカシアにおける顕著な効果



下草のワラビでも明確な違いを確認

開発者の ひとこと

植物の種類による違いはもちろん、成長調整剤を与える時期や濃度によって植物の反応は違います。最も効果的な使用方法を検討するとともに、実際にどの程度成長が抑えられ、現場に適用できるのか、3年間の試験の結果で評価していきます。